

Remission

2024/2/12
NO.249

栃木DARC News Letter

目次

- P1 栃木DARC代表
「コーディネーター」
- P2 栃木DARC職員
「平安の祈り」
- P3 3rd Stage
「手紙書いてみました」
- P4 PPメンバーメッセージ
「今を生きる」
- P5 1st Stage
「苦難の人生」
- P6 プログラム風景と紹介
編集後記
- P7 1月のステップアップ
1月の献金、献品
施設報告
- P8 CF
「振り返り」
- P9 2nd Stage
「仲間」
- P10 今月活動予定



DARCをよろしくね～。



栃木 DARC®

今年の年明けは能登地震という大災害で幕を開けました。被災地の方たちは大変な思いをしていることと思います。そして先月末には東北、上越、北陸新幹線が終日運休というこれまでにない架線トラブルが発生しました。また年末に発覚した政治と金の問題や円安など日本というシステムが劣化したのではないかと思わせる出来事が次々起きています。

依存症対策は少しずつですが、良くなってきていると思いますが、毎度言っていることですが、早期介入の取り組みがなかなか進みません。他の先進国などにはあるダイバージョン（非刑罰的介入）やドラッグコート（薬物裁判所）というシステムが日本にはない中でどのような方策があるのか検討していく必要があると思います。

依存症の回復支援には様々な役割が必要です。相談支援は家族と本人があるし、併存障害には医療的支援も必要だし、またダルクのような社会復帰支援も必要です。中でも早期介入に欠かせないのはコーディネーターだと思います。目の前に現れた人に今一番必要な支援は何かを見極めニーズにあった支援機関に繋げる役割です。このコーディネートがうまく機能していないのが現状だと思います。それでもアルコールとギャンブルには健康障害対策基本法がという連携がしやすくなる法律があります。ですが薬物だけはありません。薬物は違法なものがあるので作りにくいのかかもしれま

「コーディネーター」

特定非営利活動法人 栃木DARC
代表理事 栗坪千明

せんが、連携という面においてこの法があるのとないのではないぶん違いがあると思います。

ダメ絶対運動の成果だと思いますが、日本は他の先進国と比べ国民の違法薬物の生涯経験率は圧倒的に低い数字で、欧米の40%以上と比較すると日本は3%未満と圧倒的に少ないのです。これは喜ぶべきことだとは思いますが、よくよく考えると100人いたらそのうちの2～3人は経験しているということです。日本の人口1億2400万人のうち300万人と考えると少ない数字ではありません。おおよそ茨城県の人口くらいです。そのうちどのくらいの人が依存症になるのかは計り知れませんが、早期介入がされずに回復困難な状態まで放っておくのは、少子高齢化により人口が減少している日本において、貴重な人的資源の損失だと思います。特に市販薬、精神薬、ゲーム依存などで若い層の社会参加が減少するのは痛いことです。

明るいニュースとして栃木県では行政民間の垣根を越えて様々な依存症関係機関が集まり県依存症対策推進計画を策定しています。これが薬物関連基本法の代わりとして機能していけば良いかと期待しています。



栃木 DARC®

「平安の祈り」

栃木DARC 2nd Stage Center
サービス管理責任者 新井智也

栃木DARCの事業

栃木DARCの事業の多くは、委託または助成を受けた形が多く、一般社会に向けての特定非営利事業と施設事業を行なっています。

特定非営利事業は、一次予防としての乱用防止、二次予防の再乱用防止を多く含み、施設事業は、三次予防以降となる依存症からの回復のための場所とプログラムの提供を行なっています。依存症本人が誰かに薬物を勧めることによって薬物問題が広がるリスクを考えると、これも乱用防止の一環であると言えるでしょう。



やりますね！

暦の上では春ですが、まだまだ寒い日が続きますね。皆様いかがお過ごしでしょうか？

私は2月で栃木DARCに入職して、早いもので1年と2ヶ月経ちました。お陰様で皆様に支えて頂きながら、充実した日々を過ごしています。ありがたい限りです。今回のニュースレターは、栃木DARCで過ごす日々の一コマについて書かせて頂きます。

栃木DARCで過ごす時間の中で、私が特に「好きだなあー」と感じる場面があります。それはNAの締めになる、「平安の祈り」を皆が手を繋いで行う儀式です。そして同時に「好きだけどちょっと寂しい」場面でもあります。

というのも、私自身はNAで発言できないのです。ご存知の方も多いかと思いますが、依存症当事者でない者は、NAに発言も献金もできない。見学者としての参加のみ許されています。ですので平安の祈りに関しても、私はNAで発言自体できない訳ですから、唱えることもできないと解釈し、私はいつも一歩離れた場所から、皆が手を繋いで平安の祈りを唱える様子を見ています。なので、ちょっと寂しいのです。

皆が唱える平安の祈りを見てみると、学生時代に団体戦でやっていた円陣を思い出します。私は学生時代空手道部でした。試合前のプレッシャーを皆それぞれ抱えて、ぶっちゃけ不安だ、でも勝ちたい！そんな気持ちを一つにして、全員が肩を組んで「勝つぞ！おー！」とやるあれです。皆が一つになる瞬間ですね。私は仲間と組む円陣が好きでした。

NAを見学していると、平安の祈りを通じて「この先不安はあるけれども、今日だ

けを頑張ろうぜ！おー！」と皆が一つになっているように感じます。見ていて、「好きだなあー、輪に入れないのちょっと寂しいけど」と感じる場面なのです。

話は変わりますが、私には二人の息子がいて、二人とも空手を習っています。地元の名門道場に入ることが出来て、二人とも幼稚園から頑張っています。次男は幼児でまだまだですが、長男は日本一を目指しています。当然ながら空手中心の生活。道場の練習は日曜日を除く毎日で、日曜日は試合か遠征です。自宅のガレージで朝練、夜は道場の練習、試合の無い日は自主練、朝から晩まで空手漬けです。現役時代の私の何倍も頑張っています。長男は昨年、小四組手で栃木県のチャンピオンにもなり、栃木県代表で夏に全国大会に出ました。

結果は三回戦敗退。日本一になるには心・技・体が、何もかも足りないことが明確になりましたが、それでも日本一を目指し日々努力しています。

こんな日々を送っていると、時に惨めで残酷な負け方をすることもあります。勝負の世界ですからね。良いことが1割、苦勞が9割です。最近長男が負けた時、落ち込んだ時にはこの話をよくします。

「この負けの結果は変えられないから、泣かないで、不貞腐れないで、落ち着いて受け入れよう。勝つために俺たちには何が足りなかったのか、変えていけることは勇気を持って変えていこう。もう変えられない事と、これから変えていける事を見分けよう。」

どこかで聞いた言葉ですね（笑）。平安の祈りは私たちの空手にも良い影響を与えてくれています。



「苦難の人生」

依存症のまあちゃん

Ist Stage

～導入～

Ist StageCenterでは、回復初期に、生活習慣の改善と健康的な肉体を取り戻す事に主眼をおき、規則正しい生活を目的としています。グループワークや学習型のプログラムは少なくして、その分、作業やスポーツなどの体験型のものを多く取り入れて、使わない生活に楽しみが感じられることに重きを置いています。依存症者は充実感、安定感、所属感を取り戻す必要があります、この三つをできるだけ効率よく感じられるようにプログラムは組まれています。



時下益々御清祥の段、大家至極に存じあげます。陳者私が栃木ダルクと繋がる前の話をしたいと思います。私は昨年10月20日に来ましたが、その前は静岡県の三島に居ました。12年前位ある所に所属していました。私は28歳で初めて刑務所に行きましたが、その後娑婆が一年持たず、出たり入ったりを繰り返し、八回の懲役に行っております。三島の仲間と呼んでいた人達に、刑務所に入る度に、私の荷物を一切合切持って行かれました。現金や服やCD、家具や家電や原付バイク等、何から何迄全部です。それから資格証も全部売られました。その上、私はこの仲間と呼んでいた人達と離れようとして、コンビニのバイトに行っていて、後少して正社員になることと言われており、本社の研修迄行っていたのにこれを駄目にされました。その上更に、私のことを面白おかしく、あることない事SNSにアップされ、それが原因となり、私の母が令和2年4月9日に自殺してしまっただけです。連中は、私が困っていても一切手を差し伸べる事も、声を御してくることもなく、自分たちの都合や体にかかる事も私に押し付けてきました。私はその為生活して行く事が出来なくなりました。それで静岡ダルクへ相談したところ、栃木ダルクへ繋がりました。私は今迄刑務所ばかりの生活でしたが、施設に繋がりましたので、どうにか1年の壁を破れそうです。私は今迄の人生で苦難つづきでしたが、ここ迄人生を目茶苦茶にされたのは初めてでした。私は三島にて一生懸命やっていたのです。家族も持たず、彼女も作らず、自分の時間もほとんどないのに文句一つ言うことなく所属していた所の為必死で頑張った

のです。それが私の大事な母の命を奪われたのです。私は今でも連中を絶対に許すことが出来ません。こんな所に12年と言う歳月を捧げてしまい、本当に無駄な年月を過ごしてしまいました。私の事を面白おかしくSNSに迄アップされ、全世界へ発信されてしまいましたので、本当に取返しがつかなくなりました。小学生にSNSの人だと指を差されたり、若い女の子に笑われたり、怖がって逃げられたりと本当に三島では恥をかかされました。この様な本当のどん底は、後にも先にもないかと思えます。栃木ダルクへ繋がり、やっとこの悪夢から脱出出来ました。今後の人生を立て直す為にも、一瞬一年を無駄にせず、日々精進して行きたいと存じ上げます。これからはプログラムを一生懸命やり、色々頑張りたいと思います。どこかで私を見かけることがありましたら、声でも掛けて頂きますと、幸甚の至りに存じます。皆様もそれぞれの問題があるかと存じますが、私の様な者でも頑張っています故、あきらめずに頑張って下さい。それでは皆々様の御健勝と御多幸を衷心より、祈念いたします。何卒ご自愛下さい。乱筆乱文、数々のご無礼非礼があるかと存じますが、浅学菲才の為、ご海容願います。では欄筆致します。



2nd Stage

～回復～

2nd StageCenterは、回復の中心を担っています。ある程度のクリーンを持ったメンバーが、各々のプログラムを深める時期にあたるので、過去を正しく振り返ること・メンバー同士の関わり方などをグループワークに参加しながら試行錯誤して自身の回復につなげていきます。回復を確かなものにしていくための重要な時期をこの施設で過ごしています。



やりすぎねー！

新年あけましておめでとうございます。寒い日が続く中皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。野木2sc来て3か月、ようやく野木の施設にもなれ、新しい仲間にも仲良くしてもらい、最近ですが心穏やかな生活を送れるようになりました。皆様今年もよろしくお願ひします。改めましてアルコール依存症のセラチンです。ニュースレターを書くのは、今回では2度目になります。早いもので令和4年12月30日に那須の施設に来て那須での生活を9か月過ごし、昨年9月27日に野木の施設に来てダルクでの生活が1年を過ぎました。今思うと那須1scに初めて来た時は、施設に来る前から怖い人たちの集まり、社会不適合者と軽別した目で見られていたが、入寮して一緒に生活してみると自分が思っていた人達とはまるで違い、料理、洗濯、清掃といった生活の基本である事を皆が協力仕合い助け合ってこなしている事に驚きました。考えてみると外で一人暮らしをしていた自分よりも自立している様に見え正直、自分に出来る不安にもなった時もありましたが、入寮して1か月でサポートの役割をやらせてもらえる様になりました。初めは料理のメニュー決めや、キッチンに入るのが苦手でしたが、先行く仲間や相方に助けをもらい少しずつですがサポートの業務にやりがいを持つようになり、そして入寮してから4ヶ月経ち、サポートからリーダーへと上がらせてもらいました。リーダー業務は自分が思っていた以上に忙しく自分の事もまともに出来ないのに仲間の手助けをする事なんて自分には無理だと精神的に不安定になり、少し昔の自分が出てきてしまい、アルコール

「仲間」

依存症のセラチン

に手を出しました。朝早くに起き薄暗い中、お酒を買いにコンビニまでの道の途中何度も自分は何をやっているんだろうと思い引き返そうともしましたが、その時は早くお酒を飲んで楽になりたいと言う気持ちが先行してしまい引き返すことは出来ませんでした。コンビニに着いてアルコールを買い3本を一気飲み、フラフラな状態で施設に戻り居間に着いたところですぐにチーフにバレました。その時は怒られると思いましたがチーフも施設長もアディクトなんだからスリッパでも仕方ない次やらなければいいんだと笑って許してくれました、居間に戻ると仲間達からも前向きな言葉をかけてもらいその時初めて皆、欲求と戦っている仲間達だと思ひ涙がでました。正直、那須の仲間と離れるには嫌でしたが自分には待っていてくれる子供、両親がいるので少しでも前に進まなきゃいけないと言う気持ちで野木2scに来ました。それと同時に仲間の優しさに甘える事なく、野木でのプログラムをきちんとこなして過去の棚卸をしっかりと行い今まで迷惑をかけた様々な人達に自分の回復した姿を早く見せたいので、野木での生活を一日一日大切に、確実に前に進める様に、先行く仲間、これから出会う仲間達を見習い、自分も前向きな気持ちで頑張ります。これからは未来に向けて努力し、今まで仲間の力で乗り越えられましたがこれからは自分の力で乗り越えて行きたいと思ひます。



「手紙書いてみました」

依存症のサラ

3rd Stage

～社会復帰～

3rd StageCenterは、社会復帰間近の回復後期・社会復帰期を担う施設です。1st StageCenterで断薬を目的として規則正しい生活や体力回復をし、2nd StageCenterで個々のプログラムを含めて過去の整理や人間関係の作り方を学んだメンバーが、実際の社会に近い環境で社会性の獲得と、健全な家族及び人間関係を身につけてもらう事を目的としたプログラムを組んでいます。本人の責任において生活するために起床、就寝などの時間も特に設けず、職場に出勤するのと同じようにプログラムの開始時間も設定しています。主体性を強化して社会復帰の準備を行う場所です。

本当に長いご無沙汰いたしました。幾度となく認めようと思いつながら、その度に断念してしまいました。全く不甲斐無きことでした。お許してください。お二人ともいかがお過ごしですか。お変わりございませんか。

4年もの歳月が流れたというのに、変わらないと言うほうがおかしいかもしれませんね。

ですが、唯唯お元気にお暮しのこと、願ってやみません。そして私の生活に関わる常日頃の御尽力、恐縮至極で言葉もありません。本当に有難うございます。

さて、そんなお二人の御助力に今の私は確と応えられているのでしょうか。手紙を書けなかったのは、その辺りに原因があるのでしょうか。そうかもしれません。入寮して間もなく、私の中には、ギャンブルアディクションと難病という二つに治り難い病気があるのだと覚悟しました。入寮後一年程の間、難病は七色の症状で私に襲いかかり、ベッドに沈ませ不安は涙まで呼ぶ始末。そんな中から自分が体得したのは「痛みも不快もずっと留まるわけではない」という経験則。とここまで書いて、また始まったと思ったのは、私だけではなく姉さん達も同感なのではないのでしょうか。「こんなのは入寮前の自分と何がどう違うというのだろう」と。入寮前、入寮後、そして今でも聞こえてくるのは「あんたが体調不良に弱いつてのは解ったよ」「他人の痛みなんぞ分からねえよ」せいぜい、こんな声だけだ。ただ以前と違うのは、その声がはっきりと感じられることだ。自分に達成できないことは何でも、自分の体調不良の所為にする。これだね、ギャンブルにも同様の影をもたらしている。体調不良を、ギャンブル

に向かわせる第一のトリガーとして肯定し、納得し、さらに逃げられないものを自分で認定しているのだ。本当に困ったものです。自分のギャンブルアディクションばかりではなく、心の有様や生き方にさえもかかわってくるコイツを、どうにか諫めていこう。そう思います。それこそが昔も今も変わらない自分の課題であると確信しました。手紙を書いて本当に良かった。

それから、この先の事を話しましょう。どの位先の事になるか分からないですが、こちらを退寮する時には必ずやってきます。私の、そして兄さん達が愛する故郷の地に戻る事になった時、その大分変わったしまったその地をどんな思いで眺め渡す事でしょう。長い間、まるでパッと消えて居なくなった死人と同様に、ある日突然社会的存在を放擲してしまった私が、また自分の居場所を求めて舞い戻るのですから、大変なことになるでしょう。その時、三方から街を包み込むように連なる小高い山々、幼い事登った山々、そりて自分を色々な所へ誘って来た優しき道たち、その皆が私を暖かく迎えてくれるのでしょうか。そしていつか本当に、兄さん達や兄や弟等と、同じ土の上でしっかり踏ん張って立てる日が来るのでしょうか。それを脳裏に思い描きながら、私の罫2段ベットの下でペンを置きます。



Community Farm

～農業～

栃木ダルクに通うメンバーの中には通常のプログラムが適さない方も少なくありません。CF (コミュニティーファーム)では、薬物依存症以外にも社会復帰を目指した際に問題 (高齢である・重複障害がある)を抱えたメンバーがゆっくりと自分なりの回復を深めて、それぞれの社会復帰の形を探ってもらうための場所です。他の男性施設とは違い、テキストを使ったプログラムも少なく、ステージ毎に居場所を変える事ありません。農作業やボランティアなどを活動の中心にしています。金銭管理や処方薬の管理、家族の再構築など基本的な部分に時間をかけて丁寧に社会復帰の準備を行なっています。

皆さんこんにちは。まだまだ寒い日が続きますが、体調管理などどうしていますか!?僕は寝る30分位前には、布団に入るようにしています。後は厚着をしています。プログラム自体が農作業なので厚着していないと外での農作業は、寒くて仕方ないです。この時期の那珂川のプログラムは、春菊の収穫、出荷がメインとなっています。去年より2畝少ないので収穫量は、少し減っています。来年の冬場は何か違った野菜が作りたいなあ～なんて思ったりもしています。

さて、ここから本題に入りたいと思います。今から7年前僕は、福島県にある刑務所に居ました。ちょうどこの頃で、刑務所の中の舎房はとても寒いし中は汚いトイレの蓋は割れているし、刑務所ってこんな所なのだなって感じがして嫌気が差しました。でも受刑者の皆はとても元気な人たちばかりでした。僕は、一人の受刑者と仲良くなりました。その人は刑務所の暗黙のルールとか色々教えてくれました。ちなみに刑務所は6回目って言っていました。僕の移送の日、舎房を出たとき窓越しにコブシを握り締めて僕に突き立ててきました。口元は頑張れよって言っていました。思わず涙がこぼれ落ちそうになりました。

それから、僕は、栃木県にある刑務所で、2年2ヶ月間、服役することになりました。福島県の刑務所と違って栃木の刑務所はとても舎房が綺麗なのです。ここなら2年位頑張れるかなあ～とか思いながら、いざ毎日生活してみるとわからない事だらけだし、変なルールはあるし作業中脇見をして連行される受刑者はいるし何か変な所だとか思ったけど、少しワクワクとかドキド

「振り返り」

依存症のスズ

キがあって刺激的な所だなと思いました。僕は、工場でボールペンの組み立てと検査をしていました。皆は詰まらないとか言っていました。僕は地味な単純作業が好きなので、特に検査には、力を入れていました。その担当してくれた先生も大変お世話になりました。担当先生は、朝の朝礼でこんなことも言っていました。「私は北極星のような一番に光り輝く人間になりたい。」僕もその時こう思いました。刑務所の中で「1種1類になりたい」と、、、。結局僕は、2種B2類で止まってしまいました。あと、刑務所でやったことといえば、職業訓練ですかね。僕は、情報処理技術科を受けることができました。約半年間ワード、エクセル、パワーポイントの基礎を習いました。そのおかげで、タイピングや軽い表やグラフなどは、簡単にできるようになっています。欲を言えばもう少し色々な事ができればいいのかと思います。このときお世話になった工場の担当先生にも大変お世話になりました。一度だけ怒らせてしまったことがあり、きつく訓示を受けました。要は、同じ居室で生活している受刑者とふざけていて、警備隊に注意された事です。ほんの悪ふざけのつもりだったのですが、話がだんだん大きくなってしまいました。慣れというのは怖いもので、刑務所でも住めば都になってくる感覚、結局どこにいても一緒かなんて思ったりもする。社会から離れて約8年、、、早く社会復帰したいですね^^

pp

「今を生きる」

Peaceful Place

～女性～

PP(ピースフル・プレイス)は女性専用の施設です。ファースト・セカンド・サードの全過程を同じ場所で過ごしながら、それぞれの回復を進めていきます。女性依存症者の多くは、それまで生きてきた背景に様々な問題を抱えています。生きるための道具だったアクションを手放していくとき、経験を共有し合える仲間が小さな安心感を積み重ねてくれます。その安心感が私たちを自己否定ではなく自己受容という形に変えてくれるのです。安全を感じながら回復を進めていくことができる場所とプログラムを提供すると共に、自分を大切に生きる生き方を身につけてくれるように願いながらサポートを続けていきます。

三度目のニュースレターを書かせて頂くことになりました、依存症のミサキです。今回は最近の自分について書いていこうと思います。

まず最近の出来事ですが、女性施設が移動になり、全員で引っ越しをしました。私は判断力や決断力に欠いているので、指示を出すのが大変だったのと、慣れない環境での生活が単純に苦しかったのを覚えています。仲間の退寮も重なってショックも大きく、気持ちの切り替えの出来ない中で環境も生活の流れも変わって、今でも落ち着かない自分を感じています。ぼんやりと「何かいいことないかなあ」と考えることが増えました。待っているだけでは何も変わらないことは分かっていたはずですが、自分から動く気力がありませんでした。この頃気付いたのが、自分はやる気がない時に気合いで乗り切っているということだったので、そのどちらもない自分を持て余していました。

基本的にネガティブで暗い考えが止まらない私ですが、引っ越して良かったこともあります。本部の犬と遊ぶ機会が増えたり、移動時間がなくなって時間が増えたりしたことです。本部の方と話をすることも増えて、役割への不安を解消してもらうなど、直接サポートしてもらうことも増えました。施設でのいろんな出来事で不安が大きくなり動揺し、退寮を心に決めてしまった時も、仲間や施設長、職員の皆さんが支えてくれてなんとか踏みとどまることが出来ました。

回復は誰かのためだけにするものではなく、自分自身のために始めなければいけないと感じました。今もまだ退寮したい気持ちがありますが、「一ヶ月くらい

依存症のミサキ

頑張ってからまた考えよう」と、今日だけを生きるつもりでやっていこうと思います。頑張るのをやめて、とりあえずやってみよう、今だけを考えよう意識を変えていきたいです。先行き不安を膨らませて何もかも手放そうとする考え方を考えるよう伝えてくれた施設長のメッセージを私は忘れずにいたいと思います。

最近の自分の取り組みは、正直になることです。ミーティングを含め、プログラムでも生活の中でも嘘はつかないよう意識しているものの、言いたくないことを言わない棚卸しで誤魔化しているだけでした。分かっているけど直せなかったところなので、今は積極的に正直な棚卸しにチャレンジしています。それによって、つらいことを思い出して苦しい気持ちになる反面、やっと自分のことを見つめ直すことができた、という気持ちにもなりました。意味のないプログラムがないように、やり慣れていないことややりたくないことでも、取り組むことで自分に良い結果がついてくると実感できました。

今の私は不安定であり前向きに努力が出来ない状態です。でもまずはそんな自分を受け入れて認めて、仲間やプログラムを、また、ここまでプログラムを生きてきた自分を信じたいと思っています。

私の課題はまだ山積みです。でも、課題が見えているうちは取り組むことができるという意味なので、あとは少しずつやっていくだけだと思っています。ネガティブでも、不安定でも、それでも生きていくことを選んでいる自分を私は大切にしていきたいです。

ここまで読んで下さってありがとうございました。

3 Stage System の概要

AAやNAなどの自助グループの12ステップを基に、意味を抽出したものを3段階にわけ、Stage 1～3を最短12ヶ月で行います。

Stage 1

①認める②信じる③まかせることを通じて、自分のアディクションの問題を認め、助けてくれる存在を信じ、回復プログラムに自分の回復を任せるとする導入の部分を行います。

Stage 2

①過去の整理②本質を探る③欠点を取り除く④手放す⑤準備する これまでの問題の分析をし、自分の問題の本質を探り、アディクションに繋がる部分を取り除き、自らの問題を手放し、社会の有用な一員となる準備をしてもらいます。

Stage 3

①行動の変化②実行し続ける③配慮④継続として、これまで行ってきたStage 1、2のプログラムを踏まえ、どのように行動を変化させていくか、それを実行し続けるにはどうしたら良いか、また他者とのコミュニケーションはどのようにするか、これまで行ってきたことを社会の中で実践し続けていくには何が重要かを見出していきます。

1月にステップアップした仲間

Stage up

- ・該当者なし

Role Model

- ・ヒコ リーダー～チーフへ
- ・カズ サポート～リーダーへ
- ・まあちゃん メンバー～サポートへ

PP

- ・該当者なし



1月の献金・献品

(献金) 那須トラピスト修道院様 他匿名者3名

(献品) 匿名者7名

とても助かっております。栃木ダルク一同感謝しています。

献品のお願い

- ・日用品、家電一式、原付バイク、自転車、その他自立して使用できるものがあればよろしくお願いします。
- ・1st StageCenterからソフトボール用品、スノーボード用品あればよろしくお願いします。
- ・CFから農機具関係(草刈機、農作業用品、トラクター)等あればよろしくお願いします。

施設報告

1st(導入) 9名 2sc(回復) 13名 3sc(社会復帰)

18名 計45名で活動しております。

ステージ毎のプログラムを実施しております。

今月活動予定

2月

- 2日 栃木DARC 創立記念日
- 3日 家族教室 再乱用防止教育事業
- 5日 東京保護観察所プログラム
- 7日 再乱用防止教育事業県北
- 10日 令和5年度栃木DARCセミナー
- 13日 宇都宮保護観察所プログラム
- 14日 鹿沼市立東中学校講演
- 15日 再乱用防止教育事業県庁
- 20日 再乱用防止教育事業県南
- 21日 岡本台病院プログラム
- 22日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
宇都宮保護観察所プログラム
- 24日 心理教育・家族教育ネットワーク
- 25日 心理教育・家族教育ネットワーク

発行所

郵便番号一五七一〇〇七二 東京都世田谷祖師谷三十一一七一〇二号
特定非営利活動法人障害者団体定期刊 定価100円

編集 特定非営利活動法人栃木DARC

〒321-0923

栃木県宇都宮市下栗町 2292-7

TEL 028-666-8536 FAX 666-8537